

## 2020 年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護学科		科 目 区 分	専門基礎分野	授業の方法	講義
科 目 名	生体機能学Ⅳ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	1年生		学期及び曜時限	後期	教室名	
担 当 教 員	原 太久茂	実務経験と その関連資格				
《授業科目における学習内容》 人体の構造と機能は、体の正常な生理機能に関する学問であり、医学に携わる方々の全般の基礎科目として重要である。人体の構造と機能、各器官の役割を学びこれを基盤に診断と患者の治療・看護が成り立っている。この教科では、生態を取り巻く環境の変化にすばやく反応する機能として、筋の収縮による運動機能、思考や記憶を司る中枢神経機能(動物性神経)を学習する。人体の構造と機能を有機的に繋ぎ系統的に各器官の位置関係、形状、内部構造、機能人体における役割を学んでいく。演習を取り入れての学習「なぜ・どうし」。						
《成績評価の方法と基準》						
《使用教材(教科書)及び参考図書》 系統看護学講座 専門基礎分野 1 解剖生理学 医学書院 系統看護学講座 専門分野7 脳・神経 医学書院 系統看護学講座 専門分野10運動器 医学書院						
《授業外における学習方法》						
《履修に当たっての留意点》						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	感覚機能(聴覚・平衡覚、味覚、嗅覚)について説明できる	テキスト	(課題)	
		各コマにおける授業予定	聴覚、平衡覚、味覚、嗅覚			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	痛覚 体液の調節と尿の生成・腎臓の構造について説明できる	テキスト	(課題)	
		各コマにおける授業予定	痛覚 第5章 体液の調節と尿の生成・腎臓の構造			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	腎臓の機能について説明できる	テキスト	(課題)	
		各コマにおける授業予定	腎臓の機能 糸球体の構造と機能			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	尿の生成について説明できる	テキスト	(課題)	
		各コマにおける授業予定	クリアランス・排尿路・尿の貯蔵と排尿			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	体液の調節について説明できる 皮膚の構造と機能について説明できる	テキスト	(課題)	
		各コマにおける授業予定	尿の成分と性情・体液の調節 第9章 外部環境からの防御、皮膚の構造と機能			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	皮膚の防御機能について説明できる	テキスト	(課題)
		各コマにおける授業予定	皮膚の血管と神経 皮膚の機能 生態の防御機構 非特異的防御機構		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	生体防御機構について説明できる	テキスト	(課題)
		各コマにおける授業予定	特異的防御機構 生態防御の関連臓器、代謝と運動		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	体温調節と出納について説明できる	テキスト	(課題)
		各コマにおける授業予定	体温とその調節 熱の出納 体温の分布		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	体温調節と発熱について説明できる	テキスト	(課題)
		各コマにおける授業予定	体温調節、発熱		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	男性生殖器の解剖生理について説明できる	テキスト	(課題)
		各コマにおける授業予定	男性生殖器		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	女性生殖器の解剖生理について説明できる	テキスト	(課題)
		各コマにおける授業予定	女性生殖器		
第12回		授業を通じての到達目標	感覚器、腎尿、皮膚、生殖器の解剖生理の要点について述べる事ができる	テキスト	(課題)
		各コマにおける授業予定	学習の振り返りと中間まとめ		
第13回		授業を通じての到達目標	発生について説明できる	テキスト	(課題)
		各コマにおける授業予定	生殖細胞と受精 初期発生と着床 胎児の血液循環		
第14回		授業を通じての到達目標	脳の機能について説明できる	テキスト	(課題)
		各コマにおける授業予定	まとめ 脳の機能		
第15回		授業を通じての到達目標	ホルモンの働きについて説明できる	テキスト	(課題)
		各コマにおける授業予定	まとめ ホルモン		